



2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2018年11月2日

上場会社名 株式会社ダイショー 上場取引所 東
 コード番号 2816 URL <http://www.daisho.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 松本 洋助
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 堀脇 裕之 (TEL) 092-611-9340
 四半期報告書提出予定日 2018年11月9日 配当支払開始予定日 2018年12月3日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第2四半期の業績 (2018年4月1日~2018年9月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	9,875	3.2	198	26.2	209	32.2	125	34.5
2018年3月期第2四半期	9,569	3.1	157	55.0	158	58.5	93	84.1
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2019年3月期第2四半期	13.04		—					
2018年3月期第2四半期	9.70		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第2四半期	14,381	7,846	54.6
2018年3月期	13,973	7,808	55.9

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 7,846百万円 2018年3月期 7,808百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
2019年3月期	—	9.00	—	—	—
2019年3月期(予想)	—	—	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の業績予想 (2018年4月1日~2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,800	6.5	740	20.9	740	20.1	440	11.1	45.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2019年3月期2Q	9,868,800株	2018年3月期	9,868,800株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2019年3月期2Q	216,088株	2018年3月期	216,044株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2019年3月期2Q	9,652,737株	2018年3月期2Q	9,652,756株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢の改善、設備投資の増加など、緩やかな景気の回復が持続しているものの、国内の消費は底堅くも力強さに欠け、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、人口減少による内需が伸び悩むなか販売競争が激化する一方で、消費者の価値や差別化を求める意識の高まりや根強い節約志向への対応が求められるなど、厳しい経営環境が続きました。

このような状況のもと、当社は、中期経営計画の最終年度にあたり、「成長分野である業務用製品の積極的な売上拡大」と「生鮮向け製品などの主力製品分野での安定的な売上確保」の実現という基本方針を踏襲し、経営環境の変化に対応した販売体制・開発体制のさらなる増強とともに、新製品開発によるラインアップの充実と販売プロモーションの積極的展開に取り組み、業績の向上に努めました。

製品群別の概況は、以下のとおりであります。

液体調味料群においては、小売用製品では、主力製品の「焼肉のたれ」類が順調に売上を伸ばし、家族で手軽に話題の人気メニューが楽しめる『ポークチャップの素』、『サラダチキンの素』などの新製品を投入いたしました。秋冬市場に対しては、人気の辛味系ポテトスナックの味を鍋で再現したコラボレーション製品『コイケヤ監修 カラムーチョ鍋スープ ホットチリ味』を新たに投入いたしました。また、主力のキムチ鍋スープシリーズにおいても新製品の投入、リニューアルを行うなど、「コク」、「うまみ」にこだわったラインアップを一層強化いたしました。業務用製品では、販売チャネルごとの専任部署を新設するなど、営業組織・人員の拡充をさらに推し進め、顧客のニーズに適合したメニュー開発・提案を強化したことにより、大きく売上を伸ばしました。この結果、売上高は66億53百万円（前年同期比104.6%）となりました。

粉体調味料群においては、『味・塩こしょう』シリーズは詰め替え用を中心に堅調に推移いたしました。青汁類などの小売用製品は厳しい販売環境下で苦戦を強いられました。この結果、売上高は20億32百万円（前年同期比97.2%）となりました。

その他調味料群においては、新製品『ピーマンの春雨炒め用セット』を投入し「野菜春雨炒め」シリーズのラインアップを充実させました。その他業務用製品は大きく売上を伸ばしました。この結果、売上高は11億89百万円（前年同期比106.5%）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は、98億75百万円（前年同期比103.2%）となりました。利益につきましては、販売活動への積極投資を実施し、労務費・人件費関連コストが増加したものの、原材料価格は安定して推移したことなどにより、営業利益は1億98百万円（前年同期比126.2%）、経常利益は2億9百万円（前年同期比132.2%）、四半期純利益は1億25百万円（前年同期比134.5%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ4億8百万円増加し、143億81百万円となりました。固定資産が総資産の54.5%を占め、流動資産は総資産の45.5%を占めております。主な資産の変動は、「受取手形及び売掛金」が7億31百万円、「商品及び製品」が1億78百万円増加し、「現金及び預金」が3億32百万円減少したことによります。

負債は、前事業年度末に比べ3億69百万円増加し、65億34百万円となりました。流動負債が負債合計の71.5%を占め、固定負債は負債合計の28.5%を占めております。主な負債の変動は、「短期借入金」が4億円、「買掛金」が1億38百万円増加したことによります。

純資産は、前事業年度末に比べ38百万円増加し、78億46百万円となりました。主な純資産の変動は、剰余金の配当86百万円の支出と四半期純利益1億25百万円の計上等により「利益剰余金」が39百万円増加したことによります。自己資本比率は54.6%となり、前事業年度末に比べ1.3%下降しました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、13億10百万円となり、前事業年度末に比べ3億32百万円減少いたしました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期純利益2億円、減価償却費3億42百万円、仕入債務の増加額1億38百万円等による資金の増加と、売上債権の増加額7億31百万円、たな卸資産の増加額1億81百万円、法人税等の支払額1億53百万円等による資金の減少により、前年同期比で1億24百万円支出減の3億84百万円の純支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出98百万円等による資金の減少により、前年同期比で6百万円支出減の1億3百万円の純支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入れによる純収入4億円とリース債務の返済1億57百万円等の支出により、前年同期比で2億6百万円収入減の1億55百万円の純収入となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期決算短信(2018年5月8日公表)において発表いたしました通期の業績予想からの変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①原価差異の繰延処理

操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期間末までにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産または流動負債として繰延べる方法を採用しております。

②税金費用の計算

当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,642	1,310
受取手形及び売掛金	3,113	3,845
商品及び製品	748	927
原材料	334	337
その他	270	147
貸倒引当金	△18	△22
流動資産合計	6,092	6,546
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,380	2,310
土地	2,675	2,675
リース資産(純額)	880	825
その他(純額)	884	808
有形固定資産合計	6,820	6,619
無形固定資産	39	27
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,022	1,189
貸倒引当金	△1	△0
投資その他の資産合計	1,021	1,188
固定資産合計	7,880	7,835
資産合計	13,973	14,381

(単位:百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2018年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,584	1,722
短期借入金	300	700
未払金	1,169	1,180
未払法人税等	189	106
賞与引当金	382	401
その他	588	562
流動負債合計	4,214	4,673
固定負債		
退職給付引当金	441	438
役員退職慰労引当金	763	746
その他	745	676
固定負債合計	1,950	1,860
負債合計	6,164	6,534
純資産の部		
株主資本		
資本金	870	870
資本剰余金	379	379
利益剰余金	6,610	6,649
自己株式	△114	△114
株主資本合計	7,746	7,785
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	61	61
評価・換算差額等合計	61	61
純資産合計	7,808	7,846
負債純資産合計	13,973	14,381

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
売上高	9,569	9,875
売上原価	5,654	5,780
売上総利益	3,914	4,094
販売費及び一般管理費	3,757	3,895
営業利益	157	198
営業外収益	9	18
営業外費用	8	8
経常利益	158	209
特別損失	1	9
税引前四半期純利益	156	200
法人税、住民税及び事業税	63	74
四半期純利益	93	125

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	156	200
減価償却費	352	342
賞与引当金の増減額(△は減少)	18	19
売上債権の増減額(△は増加)	△1,134	△731
たな卸資産の増減額(△は増加)	△314	△181
仕入債務の増減額(△は減少)	317	138
その他	198	△12
小計	△404	△224
法人税等の支払額	△97	△153
その他	△6	△6
営業活動によるキャッシュ・フロー	△508	△384
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△105	△98
その他	△4	△4
投資活動によるキャッシュ・フロー	△110	△103
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	600	400
リース債務の返済による支出	△151	△157
自己株式の取得による支出	—	△0
配当金の支払額	△86	△86
財務活動によるキャッシュ・フロー	361	155
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△256	△332
現金及び現金同等物の期首残高	1,427	1,642
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,170	1,310

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第2四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

該当事項はありません。